

# 三重県議会議員 森野真治の県政レポート

2月16日から始まりました平成21年第1回定例会も終盤となりました。

例年ですと当初予算の審議を行う3月までが忙しく、この時期はわずかな補正予算が上程されるだけなのですが、国で矢継ぎ早に補正予算が可決されたり、新型インフルエンザが発生したりいたしましたので、大規模な補正予算があわただしく何度も上程をされてまいりました。

そのような中でしたが、2月26日に引き続き、6月11日に一般質問をさせていただきました。今回も一般質問の内容を中心に、活動の一端をご報告いたします。



2009年第3号(通算第5号)

2009年6月発行

## 6月11日に一般質問をいたしました！

### 質問項目

- (1) 子育て支援について
- (2) 観光振興について
- (3) 地域医療の再生について



地域別観光入込客数(2008年)

| 地域   | 観光客数      | 対前年比  |
|------|-----------|-------|
| 北勢   | 1,323万8千人 | 2.3%↑ |
| 中南勢  | 592万5千人   | 3.2%↓ |
| 伊勢志摩 | 953万3千人   | 2.0%↓ |
| 伊賀   | 328万5千人   | 9.1%↓ |
| 東紀州  | 157万7千人   | 0.2%↓ |

観光客の居住地(2008年)

| 地域   | 関東    | 中部    | 関西    |
|------|-------|-------|-------|
| 北勢   | 6.1%  | 35.8% | 39.9% |
| 中南勢  | 9.4%  | 25.6% | 39.6% |
| 伊勢志摩 | 15.4% | 27.8% | 39.9% |
| 伊賀   | 5.9%  | 23.6% | 55.7% |
| 東紀州  | 9.2%  | 36.7% | 31.1% |

### (1) 子育て支援について

#### ○森野

三重県の延長保育の実施率は全国平均の62.7%と比較して36.2%と極めて低く、全国ワースト4位です。その理由と今後の取り組みについてどのように考えていますか。

#### ○こども局長

原因はよくわかっていませんが、重点的な取り組みにより、平成18年から3年間で41ヶ所増加して168ヶ所で実施されています。引き続き市町の取り組みを支援していきます。

#### ○森野

国の一時保育に対する補助基準が厳しくなり、一時保育ができなくなる保育所(園)がたくさん出ることが懸念されています。三重県独自の補助の継続を含め、今後の取り組みについてどのように考えていますか。

#### ○こども局長

急な制度改正であったため平成21年度は県独自で補助をしたいと考えています。今後も市町や関係団体と意見交換を行い、支援していきたいと考えています。

#### ○森野

現在の「3人目みえ応援プログラム」は利用率も低く、3人以上の子どもがいる家庭に対する唯一の特別支援としてはあまり有効とは言えないと思います。来年度の改正に向けて3人以上の子どもがいる家庭へのアンケート調査をしてみたいかがありますか。

#### ○こども局長

来年度から「マイ保育ステーションモデル事業」を実施したいと考えており、その中でニーズ把握に努めていきたいと考えています。

### (2) 観光振興について

#### ○森野

「平成20年観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書」によりますと、2008年に伊賀地域だけが1割近くも観光入込客数が減少しています。

新名神高速道路へ移行した観光バスやマイカー対策として、新名神高速道路・甲賀土山ICと名阪国道・上柘植ICを結ぶ名神名阪連絡道路の建設が急がれますが、どのように考えていますか。

#### ○県土整備部長

近畿・中部地方整備局、滋賀県、三重県間で調整を図りながら、国の事業として事業化していただくよう要望してまいります。

#### ○森野

伊賀地域への鉄道でのアクセス時間が短縮されれば、どの方面からも入込客数の増加が見込めると思います。県の鉄道の利便性向上のための取り組みをお伺いします。

#### ○政策部長

国やJRに対して、加茂～亀山間の電化など施設整備の促進、増便やダイヤ改正など乗り継ぎ利便性の向上を要望していますが、複線・電化などの大きな設備投資については関心を示してもらっていません。今後も粘り強く要望してまいります。伊賀鉄道に対しては車両更新に対する補助等を行ったり、伊賀神戸駅での乗り継ぎ改善を働きかけたりしており、3月20日から最大13分短縮されました。

#### ○森野

三重県の観光や物産を振興するため、首都圏において積極的に情報発信するための拠点として、東京にアンテナショップを設置すべきだと思いますがいかがですか。

#### ○農水商工部長

2007年度に調査し、多額の経費を必要とするため断念しました。百貨店等を利用して少ない経費で情報発信を行ってまいります。

今年度は、県議会において以下の仕事をしています。

- 防災農水商工常任委員
- 予算決算常任委員
- 地域雇用対策調査特別委員
- 議会運営委員
- 都市計画審議会委員

県政に対するご意見、ご要望などがございましたら  
お気軽にご連絡ください。

ホームページもご覧ください。 <http://www.morino.biz/shinji/>

### 森野真治事務所

10:00～18:00(土・日・祝除く)

〒518-0873  
伊賀市上野丸之内117-21

電話 0595(23)6060  
FAX 0595(48)6233  
Email: shinji@morino.biz



## (3)地域医療の再生について

### ○森野

三重県の人口10万人あたりの医師数は、全国平均の206.3人を30人近く下回る177.9人となっています。さらに伊賀地域では117.5人で県内で最も低い水準です。伊賀地域の医療提供体制を構築していくためには、保健医療計画において伊賀地域を独立した二次保健医療圏として位置づけ、必要な支援を行うべきであると思っておりますがいかがですか。

### ○健康福祉部長

伊賀地域では医師の確保と合わせて、救急医療をはじめとする地域医療体制の整備が緊急の課題となっています。現在、三重大学に医師不足地域を対象とした地域枠入試制度の創設や伊賀地域をカバーする新たな救命救急センターの設置などに取り組んでいます。伊賀地域を独立した二次保健医療圏に設定することについては、医療審議会において検討していきます。

今般、伊賀市及び名張市において、伊賀地域の医療機関への医師確保や、病院の機能分担と医療機能の集約化に向け、検討委員会を立ち上げ、本格的に議論を始められると伺っています。県もこれに参画したうえで、効果的、効率的な医療提供体制が構築されるよう、必要な支援を行っていきたく考えています。

### ○森野

今年度の医師確保対策事業の中に新事業

として「バディ・ホスピタル・システム」があります。「バディ」とは「相棒」という意味で、医師不足地域の病院と都市部の病院が相棒となって診療支援を実施する仕組みで、事業内容としては、医師不足地域の病院に対して支援病院から希望者を募集し、3ヶ月程度の短期間、医師を派遣することで地域病院を支援する。派遣された医師は、現地において指導医によるサポートのもと診療支援を実施し、地域医療を守るための即戦力としての役割を担うとされています。

バディ・ホスピタル・システムは全体的に医療資源が不足している中で、その中でも医療資源が相対的に多い地域と少ない地域の病院が診療支援を行うという、助け合いの精神に基づいた即効性のある施策であると評価いたしますが、事業開始の4月以降の現状と、今後の予定についてお伺いします。

### ○健康福祉部長

伊賀地域では、県立総合医療センターと上野総合市民病院において、本年5月に連絡協議会を立ち上げ、内科への当直支援が行われています。今後もシステムの円滑な運用に努めてまいります。

### ○森野

現状、月に1回(1晩)当直に来ていただいているだけと聞いています。本来のバディ・ホスピタル・システムの姿になるよう、今後とも努力をしていただきたいと思います。

## <二次保健医療圏>

「地理的条件等の自然的条件及び日常生活の需要の充足状況、交通事情等の社会的条件を考慮して、一体の区域として病院における入院に係る医療を提供する体制の確保を図ることが相当であると認められるものを単位として設定すること」

## 伊賀の地域医療を考える

### シンポジウム～第2弾～

日時 7月11日(土) 14:00～16:30  
会場 上野フレックスホテル

講師に奥野正孝氏(三重県地域医療研修センター長)をむかえ、討論会では伊賀市長、名張市長、上野総合市民病院長、名張市立病院長も交えて、今後の伊賀地域の医療体制について考えます。たくさんのご参加をお願いいたします。